

KOJOH New Office プロデュース



NEW STANDARD



これまでの働き方とオフィス

従来のフリーアドレスと **ABW** は何が違うのか

- ・フリーアドレスは「オフィスに出社し、決められた席で働く」ゾーンが限られて移動する場所がない。
- ・ABWは「社員が自律的に業務内容や気分に合わせて、働く時間や場所を自由に選択するワークスタイル」

フリーアドレスの固定席からABWへ

ICTツールの活用で、固定席の仕事から、目的にあわせて仕事の場所を選べます。

BEFORE



AFTER



・自ら動く、気軽に繋がるABW

ABWとは、「Activity based Working（アクティビティ・ベースド・ワーキング）」の略です。社員が自律的に業務内容や気分に合わせて、働く時間や場所を自由に選択するワークスタイルです。

働き方改革の推進や社会情勢の変化により、ここ数年で急速にテレワークが普及したことで、従来の「オフィスに出社し、決められた席で働く」というスタイルに変わり、ABWのように自由度の高い働き方を採用したいと思います。

ABWには、 2つのパターンがあります。

- ・ 広義でのABW

自宅やカフェなど、オフィス以外の場所も働く場として捉えます。
導入を進める際は、オフィス内の整備だけでなく、制度やICTツール、セキュリティ、サテライトオフィス等の契約などを含めて環境整備が必要です。

- ・ 狭義のABW

仕事をする場はオフィス内にとどまります。
オフィス内に自席以外でも働ける場をつくり、集中して業務をしたい場合には、個人ブースで仕事したり、リラックスしながらアイデアを練りたいときには、社内に設けられたカフェスペースで仕事をしたりと、仕事の内容によって、オフィス内のスペースを自由に選択して働くワークスタイルです。

ABW型の働き方を導入することで、下記のようなメリットが期待できます。

- ・生産性向上

「自宅で集中して作業したい」「チームで議論を交えながらアイデアを創造したい」など、ABWでは業務内容や気分に合わせて適切な労働環境を選べます。働きやすい環境はモチベーションやパフォーマンスのアップにつながります。会社から決められた場で1日中働くのではなく、最高のパフォーマンスを発揮できる場を自身で選ぶことで、生産性の向上が期待できるでしょう。

- ・コミュニケーションの活性化

ABW型オフィスでは、従来の組織ごとに席を固定したワークスタイルと異なり、自身で仕事をする場を選択します。オフィス内でABWを推進し、毎日、違うメンバーと席を共にすることで、部署や組織を超えたコミュニケーションの活性化や新しい発想を促す効果が期待できるでしょう。ただし、オフィス外も働く場と定めてABWを推進する際は、この限りではありません。働く場や時間がバラバラになってしまうと、時にはコミュニケーション不足に陥る可能性もあります。詳しくは、「4.ABWを導入する場合に注意する点」でご紹介します。

・コスト削減

一人一台ずつデスクを用意するというオフィスの場合、社員全員分の座席を確保しなければなりません。ABWの導入と併せて、自席のフリーアドレス化を進める場合は、ファシリティコストの削減が期待できます。

・ワークライフバランスの両立

ABWでは時間や場所に縛られない働き方ができるので、育児や介護で忙しい方でも私生活と仕事との両立がしやすくなります。

在宅勤務や自宅近くのサテライトオフィス等で仕事をする場合には、通勤時間を削減することにつながり、その時間を家族との時間に充てるなど、自分の生活スタイルに合った働き方をすることができます。

・優秀な人材の確保

ABWのように、社員の裁量にゆだねた自由度の高い働き方を推進している企業は、離職者が少なく、従業員の満足度が高い傾向にあります。ABWの導入は「社員のワークライフバランスに配慮している企業」ということのアピールにもつながるため、国内外の優秀な人材を確保しやすくなるでしょう。

企画や営業など多種多様な仕事を抱える人にとっては、自由に働く場所を選べる環境は魅力的にうつります。また働きやすい環境は、社員の帰属意識も高め、人材の流出抑制効果も期待できます。

・自律的な働き方の促進

前述のとおり、ABW型の働き方は、その日の気分や仕事の内容に合わせて働く場や時間を自由に選択するワークスタイルです。

自由である反面、自身で仕事の進め方を考え、その日の行動を組み立てていく必要があるため、自主性が求められる働き方であるとされています。自身の責任において、その日の業務や気分に合わせて場所を選び、ベストなパフォーマンスを発揮することが求められるワークスタイルです。

ABWを導入する場合に注意する点

- ・ 評価や勤怠管理が煩雑になる

ABW型の働き方を推進することで社員の働く場所が多様化するため、従来の方法では評価や労務管理が難しくなるケースがあります。各個人に目が行き届かなくなってしまうので、ABWを導入する場合は管理方法や評価方法の検討、ツールの導入などを細やかに整える必要があります。

- ・ 社員の自主性が求められる

ABWを導入しているオフィスでは、社員ひとりひとりが自分で考えて適切な働く場所を選ぶ必要があります。「どの環境であればベストパフォーマンスが発揮できるかわからない」「業務の優先順位がつけられない」という社員がいる場合は、周囲のフォロー体制や上司との関係性を密に築くことが非常に重要です。

- ・ 社内にABW型の働き方が浸透しない

ABWを導入しても、導入以前と同じ働き方をしている、同じ場所、同じ部署のメンバーで固まって座っているというケースはよくあることです。ABWを導入するうえで大切なのは、「何のためにABWを導入するのかという目標を明確にし、社員と共有する」ことです。世の中の流れに乗じて、拙速に形だけABWを導入しても思ったような効果は得られないケースが多いため、導入前の目的の設定や社員との対話は、ABWを成功に導くために非常に重要なプロセスです。

ABWを導入

レイアウトを検討する

ABW型の働き方を推進するためには、オフィスレイアウトも非常に重要な要素です。オフィス内でABWを推進するには、気分や業務に合わせて場所を選択することができるよう、様々な機能の席（活動スペース）を用意しましょう。

オフィスや働き方の状況を調査する

オフィスや働き方の状況調査をします。社員の意見を聞きながら、現在のオフィスの使いやすさや働き方に関する課題やニーズを調査しましょう。



・オフィス内にどのような活動スペースを設けるかは、ABW導入の目的に合わせて設計することが大切です。

例えば、コミュニケーション活性化がABW導入の目的であれば、社員同士の交流を促すため、執務用のデスクをジグザグ型にレイアウトする、カフェスペースやオープンミーティングスペース、オフィ斯拉ウンジを充実させるといった工夫があげられます。

また、「カフェスペースには、木目調の椅子やテーブル、グリーンを配置する」「オープンミーティングスペースには、リラックスした状態でアイデア出しを促進するために、アウトドアテイストの家具を配置する」など、内装やインテリアにもこだわることで、それぞれの活動スペースの役割を社員に明確に示すことができます。

また、それぞれの活動スペースに異なるテイストのデザインを用いることで、そこで働くワーカーのモードチェンジを促しメリハリをもって仕事に取り組むことができると言った効果も期待できます。

・集中ブース

集中ブースを設置することで、1人で集中して業務を行いたい場合や人事評価や給与計算など機密性の高い仕事をするシーンに対応することができます。



・WEBミーティングブース

一緒に仕事をするメンバーは在宅勤務やサテライトオフィスからミーティングに参加するケースもあるため、WEBミーティングを行う頻度は増えます。オフィス内にWEBミーティングに対応した専用のスペースを用意することで、周囲への音漏れ防止やWEB会議に集中できる環境をつくることができます。



・ 1on1スペース

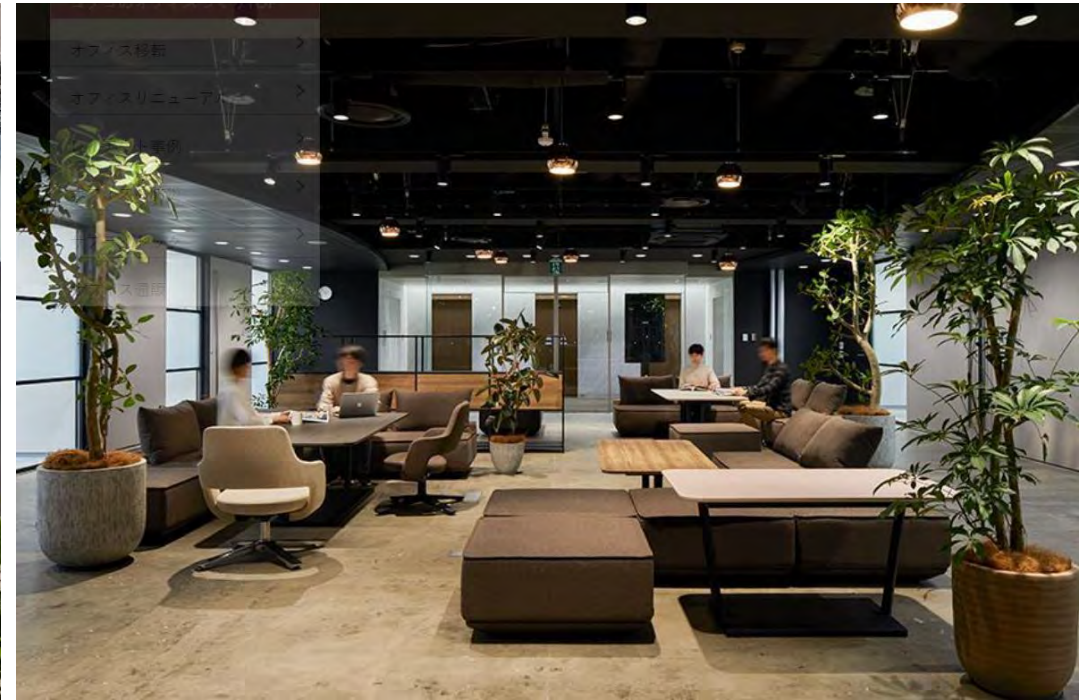
ABWを導入し、働く場が多様化すると、上司部下のコミュニケーションの取り方も変化します。定期的に1on1ミーティングを設けるなど、仕事が円滑に進むように今までとは違うコミュニケーションの方法を取り入れるといった工夫も大切です。個室型の1on1ブースは、周囲に会話の内容が聞こえないため、対面でありながら、周りの環境に左右されることなく、秘匿性の高い話も気兼ねなくすることができます。



・ オフィスラウンジ

オフィスラウンジとは、周囲とゆるやかに繋がりながら、コミュニケーションや集中作業ができる空間のことです。

オフィスラウンジには、リラックスはもちろん、仕事が快適に行える機能性も兼ね備えた家具選びが重要です。



・ミーティングスペース

最近では、個室のミーティングスペースではなく、オープンスタイルのミーティングスペースを設置するケースが増えています。

オープンミーティングスペースは、最低2人から最大で10名程度までの打合せに対応しているケースが多く、人数に合わせてレイアウトを自由に変更できるのがポイントです。また、オープンミーティングスペースをリフレッシュスペースと兼用しているケースもあります。

オープンミーティングスペースを設置する際は、ミーティングの音が周囲に漏れる恐れがありますので、サウンドマスキングシステムの導入など音環境の整備も併せておこなないましょう。



・リフレッシュスペース（カフェスペース）

仕事中のON/OFFの切替えを目的として作られたスペースです。

リフレッシュスペース内には、気分転換を促進するために「美味しいコーヒーが飲めるカフェコーナー」を併設したり、情報をインプットするための「サイネージ」や「ライブラリー」を設置したり、場の用意と共に人が集まる仕掛けをすることも大切です。



まとめ

ABWを導入することで、そこで働く社員は、仕事の内容やその日の気分に合わせて、働く場所や時間を自由に選ぶことができますようになります。

ABWの導入を進める際は、まず導入の目的を定めることが大切です。
また、効果的に導入するためには社員の意見を取り入れつつオフィスの機能やレイアウトを検討することも重要なことです。

社員の能力を最大限引き出す、労働生産性の向上、人材活用、コラボレーションの活性化、ワーカーのウェルビーイングの実現といった観点から、日本で注目されています。

OFFICE改善・働き方改革・社員の自主性

「働くをデザインする」
オフィスレイアウトのプロデュースを
KOJOHにお任せください。



КОЈОН